

武智光春コレクション 福田平八郎 FUKUDA Heihachiro

福田平八郎(1892-1974/大分生まれ)は、京都市立美術工芸学校、京都市立絵画専門学校、京都市立美術工芸学校で学び、在学時から文展に出品を始め、その後は帝展、戦後は日展を活動の場としました。大正期は当時の画壇の影響を受けた写実的な画風でしたが、後に写生に基づいたうえで、単純化された形態と色面による構成を重視する装飾的な画風に至り、作品を発表するごとに、その斬新さが注目を集めました。特に戦後の作品は、背景までもが画面を構成する色面の一部と化し、色彩豊かであるのが特徴となっています。

当館が所蔵する福田平八郎作品約40点は、本県松山市出身の装飾師・武智光春^{そうこうし たけちこうしゆん}氏よりご寄贈いただいたものです。明快な色彩と簡潔な構成で知られるその魅力が堪能できるコレクションになっています。日本画ではとりわけ季節感を大事にしますので、その季節ごとにふさわしい作品に随時展示替えしています。



《雪庭》

1955(昭和30)年

紙本着色

40.7 × 52.4cm



《鴛鴦》

1965(昭和40)年

紙本着色

65.0 × 97.0cm



《蛸》

1968(昭和43)年

紙本着色

40.9 × 53.0cm



《雉》

1969(昭和44)年

紙本着色

75.7 × 44.0cm